荒尾市立府本小学校　校長便り　№１０

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和７年５月１６日(金)

独り言

５月中旬…。早いものだ、と呟く私もかなり歳を取ったのだろう。令和７年度になったと気持ちを引き締めたのも束の間、１週間後は運動会だ。改めてこの１カ月半を振り返ってみるが、どれほどの成果が上がったか冷や汗ものだ。それでも子どもたちは運動会に向けて、楽しそうに過ごしている。私は子どもの頃、時間が経つのを遅く感じていたが今の子どもたちはどう感じているのだろうか。掛け替えのない仲間との時間を無駄にしてほしくないものだ。自戒の意味も含めてタイムマネジメントを意識していきたい。

子の成長　徒然

４年ほど前、長女が入籍し家を出た。双子の息子は揃って大学進学、我が家は家庭の雰囲気がかなり変わった。

３人の子どもたち、それぞれが生まれる時の事を思い出してみた。長女の時、「とにかく無事に生まれてくれるだけで良い。」と願い、千羽鶴を夫婦で作ったことを思い出す。双子が生まれる時もそうだった。双子の場合、充分におなかの中で成長させるため、２ヵ月ほど早めに入院することになり、千羽鶴は私１人で作った。作りながら思うことは、「母子ともに無事であって欲しい。」だった。出産時は、出血が止まらず輸血の承諾書にサインしたことを鮮明に覚えている。あの時は、出産の喜びよりも、母子の命を心配した。

あの時、「命さえあれば…」と考えていた私なのに、節目では親としての欲が首をもたげ、やれ、勉強しろ！、もう少し頑張れ！　と口やかましく我が子に押し付けたものだ。

これでは子どもが息苦しかろうと意識改革ができたのは、我が子の中学入学からだったように思う。３人の我が子には、徹底して「自己決定」に拘らせた。親の言う通りにしていれば安心だという保護者もいるかもしれない。しかし、私の教職の経験から、いつまでも「保護」するような立ち位置では、子どもの自立を阻む事が多いように思う。何故なら、そこには自己責任という発想が無いからだ。親の言う通りにしていたから失敗したとか、こんなはずじゃなかったとか、壁に突き当たった時に責任転嫁をすることが多いようだ。そうなると、将来的に困るのは誰あろう、私達保護者である。これからも、我が子を少し離れたところから見守ることにしたい。

最近の社会③

自分で書きながら、生意気なことばかり書いてしまって、反省しきりです。さて第３弾です。

⑤心をお金で買う社会？

最近感じませんか、子ども達のお金に対する認識の甘さを。最近の子どもは結構お金持っていますよね、冬休みとかは大人よりもお金を持っていたりします。でも、大体、子どもたちが買う物って決まっています。ゲームソフトやマンガ本、あとは菓子、そして、プリクラ？　一日千円以上遣うこともあるそうです。

さて、問題なのは、何か欲しくなると両親や祖父母にねだる場合です。ねだって怒られてすむ場合はまだいいのですが、すぐに買ってあげるような場合は問題ですね。前にも述べたように、親子関係が友達関係のようになってしまい、縦の繋がりが薄れつつある現代においては、物やお金は非常に大きな力を発揮します。小さい子どもに物や金で機嫌をとる親、それが当たり前のように考えている子どもが増えてきているような気がしています。人の心は絶対に物やお金では買えません。物やお金での繋がりは表面的で長続きしませんし、しっぺ返しがきます。子どもたちに本当に必要なものは何なのかを、私達大人がしっかりと考える必要があります。

シリーズ「自分を語る」#１０

小学校１・２年生時はどちらかというとおとなしい感じの澤田少年でしたが、３年生になると生活は一変します。それは一言で言うと、担任の先生の影響です。教師を目指すきっかけとなった先生に担任して頂いたのが小学３年生時でした。勉強を教わった記憶は殆ど無いのですが、とにかく「学校に行くのが楽しかった。」その一言に尽きます。先生に会いに行くために学校に行っていたような気がします。３年生時の経験は、私が子ども達に話す「くだらない話」の中にもよく登場します。学校が楽しかったことに比例して、外に出る機会も多くなり、けがやケンカも多くなりました。３年生時に最も印象に残っていることは、けがです。

ある日、帰宅後すぐにバットとグローブとボールを持って、いつも遊びに行く広場に行きました。残念なことに、その広場には先客がいて使うことができませんでした。仕方なく私達は別の場所に移動しました。そこは、野球をするには少し狭いのですが、ボールを柔らかいものに変えて試合開始。しばらくたって、１年生の打順が回ってきた時のことです。バットの持ち方が違っていたので、私は３年生ですからちょっとお兄さん風を吹かせて、教えてあげようと思い近づきました。その時です。ピッチャーがボールを投げて、それに反応した１年生はバットを振ってしまいました。そのバットは私の額に直撃です。私は頭を押さえながらうずくまりました。どれくらい時間がたったか分からないまま、立ち上がろうとした時、左目の上の部分に激痛が走りました。併せてヌルヌルした感触が伝わってきました。帽子のつばは既に血にまみれていて、帽子を持った手は血だらけだったのです。ようやく立ち上がると、私の顔に血が流れていて、それを見た周りの友達は顔面蒼白でした。まるでプロレスの流血戦のような光景だったそうです。バットを振った１年生は怖くて体を震わせて泣いていたと聞いています。慌てた友達は私の母が働くマーケットに走って呼びに行ってくれました。母は鬼の形相で駆け付けてくれたようでしたが、手にしていたのはトイレットペーパーとキッチンペーパーでした。それを頭にグルグル巻きにして病院へ直行です。笑ってしまいますよね。２～３針縫ったみたいですが、大した傷ではなかったようです。しかし、頭痛がひどかったので、一晩は様子を観察されていました。

今は野球をする場所さえなかなか見つかりません。子どもたちの遊び場所の無さは、私達の世代からすれば可愛そうで仕方がありません。世知辛い世の中になってしまいました。あの頃、みんなで遊び場を探して放課後の時間さまよっていたことも、今考えてみると必要だったのかもしれません。問題解決型生活、主体的・協働的生活ができていた最後の年代かもしれないと思っています。工夫したり、改良したり、大事な生活経験ができた時代だったように思います。

（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　　可　・　不可　）